

令和7年3月31日

世田谷区立桜丘中学校 保護者の皆様

世田谷区立桜丘中学校
校長 山本 武

令和6年度 世田谷区立桜丘中学校 自己評価 報告書

令和6年12月から、教職員を対象に今年度の教育活動に対する自己評価を実施してきました。その集計結果については別紙の通りです。また、令和7年1月から評価結果について、職員会議等で検討した内容についてまとめましたので、お知らせします。

1 令和6年度の重点項目への取組について

- (1) 確かな学力を育む教育の推進
- (2) 豊かな人間性を育む教育の推進

2 重点項目に関する取組状況について

(1) 確かな学力を育む教育の推進

自ら主体的に学び、自己の可能性を伸ばし、創造的・積極的に社会で生きる力の向上を目指す。

①思考力・判断力・表現力の伸長のために、各教科においてカリキュラム・マネジメントの視点を踏まえた探究的な学習（せたがや探究的な学び）を意図的・計画的に実施する。

【この項目に関する自己評価】

校内で学習評価に関する研修を行い、各教科で評価方法について検討を重ねました。また、保護者会や学校だよりで学習評価や探究的な学習について情報提供を行い、学校の取り組む方針を示してきました。特に、探究的な学習については、その学習の展開について説明するとともに、実際にその展開に沿った学習を実施することができました。上級学校での学習も探究的な学習が進められていることから、今後も探究的な学習の在り方を追究することが大事だと考えます。

②個々の情報リテラシーを伸長するために、また、個別最適な学びを推進するために、ICT機器の効果的な活用の研究を進めるとともに、各教科で積極的に利用し、成果検証をする。

【この項目に関する自己評価】

ICT機器の授業への利活用に関する生徒からの評価（先生はICTを利用して分かりやすい授業をしている）については、約90%が肯定的な評価をしており、成果があったと捉えています。全国学力・学習状況調査においてもCBT方式が運用されるようになり、ICTのスキルを上げることは教員にとっても生徒にとっても必要と捉えています。ICT機器を活用することで効率的な指導は可能になるとも考えられますが、学習は地道に取り組むことも重要ですので、そのことも理解啓発を行いながら、個に応じた指導の在り方を追究していきます。

③グローバルな視点で物事を考え、コミュニケーション能力の向上及び英語力の向上を図るために、英語でのスピーチや外国人との交流・対話場面（ALTの活用）を設定した音声言語に関する授業を重視して行う。

【この項目に関する自己評価】

外国語（英語）の学習においては、音声言語の学習を重視しながら行ってきました。その結果、ESAT-Jの結果も受験者の4割が「A」評価であり、成果が上がっています。5月にはマウ

ントティバー校の生徒を向かい入れ交流学習を行ったり、2月には第2学年でTGGでの英会話体験学習を行ったりし、英語を使う場面を設定するとともに、英語学習（音声言語学習）の意義の理解啓発を図ってきました。英語検定多くの生徒が受験をしており、英語学習の意識は高まっていると考えています。

- ④生徒の運動・健康への関心を高め、健康的な生活を実践する力を高めるために、運動習慣の大切さや諸調査結果を活用した啓発、外部機関と連携した生活習慣病、感染症や食育、性教育、体力向上に関する指導を保健体育科・家庭科の授業を中心に行う。

【この項目に関する自己評価】

新型コロナウイルス感染症の学校運営に関する影響はほぼなくなりましたが、健康教育の重要性は高まっていると考えています。今年度は、東京都教育委員会・世田谷区教育委員会と連携し、外部講師を招へいした「がん教育」や「性教育」を取り組みました。知識は持っていても、その知識を活用できるかどうかが重要になることから、継続的な指導も必要と捉えているところです。専門家の話を聞きながら、自分の生活に落とし込んで、それを実践できているかどうかのサイクルを確立していくことが必要と考えています。

- ⑤学びに向かう力及び知識・技能の定着を図るために、緩やかな教育課程を編成し、年間指導計画に則った指導を展開するとともに、各調査・考查等の分析を行い、指導の焦点化を図る。また、思考ツールを活用したり、体験的な学習・学び合う（協働的な学習）活動を展開したりする。

【この項目に関する自己評価】

学力向上を図るために、「自制心ややり抜く力」といった非認知能力を伸ばすことが重要です。学び舎において、外部講師を招へいし、合同の研修会を実施しました。また、世田谷区で月1回の土曜授業日を設定していたことから、週28コマの時数で授業を展開し、生徒・教員が放課後の活動を行いやすくしました。さらに、各調査等については、指導に生かす評価の材料として分析を行い、本校の傾向を、学校だよりなどで生徒・保護者に報告をしました。そして、自分の考えを整理するために、思考ツールを活用し表現する活動を実施しました。段落の構成を考えてから、書く材料を集めて文章を書く生徒の様子も見られ、成果は少しづつ上がっていると考えます。

- ⑥自己実現を図ろうとする態度を伸長するために、地域・民間企業等との連携を深め、職場体験等の人と人との関係を大切にし、社会貢献等を含む己の生き方を考える指導を行う。また、上級学校等と連携した進路ガイダンスを充実する。

【この項目に関する自己評価】

進路指導（キャリア教育）については、1年次より上級学校について学ぶ機会を設定しました。地域や学び舎とも連携し、2年次に職場体験学習を行いました。生徒の振り返りからは、礼儀や責任感の大切さについて学んできている様子が伺えました。有意義な活動ではありますが、さらに体験できる職種の幅を広げていくことが必要と考えています。また、不登校の保護者を対象とした保護者会を実施し、進路先を考える機会を設けました。特に3年生の家庭については進路に関して不安を抱えており、個別の支援が必要なため、本活動を継続して実施していくことを考えています。

(2) 豊かな人間性を育む教育の推進

自己肯定感を高めるとともに、相手の良さや立場を理解して対応できる力を向上する。

- ①人権教育の理念の理解を深めるために、学校の教育活動全体を通じて、計画的・適時的に生命尊重や多様性と包摂性の理解に関する指導を行う。

【この項目に関する自己評価】

令和6年度は、意図的に「相手意識」という言葉を用いて、生徒が他者を考える機会を設けました。いじめや、LGBTQを考える授業を外部機関と連携して行ってきました。SNSの利用についても継続的に指導を行ってきましたが、生徒間での問題も生じており、まだまだ課題はぬぐい切れていません。引き続き、人権ということをテーマに考える指導の必要性を感じています。また、キャリアパスポートを活用し、学期ごとの振り返りを定期的に行いました。目標を新たに設定し、計画的に物事を進める指導を展開してきました。さらに、自己実現をテーマに「探究的な学習」についての理解を深めるよう取り組み、何のために学習し、「なりたい自分になるため」の能力向上を図るのか、その目的意識を高めることを今後も継続していくことが必要と考えています。

- ②人間関係形成能力や社会生活に耐えうる精神的なたくましさを育むために、レジリエンスやCSRを活用した体験的な学習・職場体験等の生き方に関する指導を充実するとともに、安心して居心地のよい教室環境を整備し、他者とのかかわりを円滑にする態度を育む活動を行う。

【この項目に関する自己評価】

自己理解を深めるとともに、他者との協働的な学習を進めることができ、社会に生きて働く力となると捉え、構成的グループエンカウンターやポジティブ行動支援の生徒指導を展開してきました。問題行動数は減少傾向にありましたが、大きな問題も発生することがありました。ただ、多様性を受け入れる土壌は維持できており、転入生の多い本校ではありますが、すぐになじんだ学校生活を送ることができます。定期テスト時についても合理的配慮について学校全体で検討し、その実施の結果、成果を上げた生徒も多く出ています。個別の指導のためには、人的な支援が必要であり、今後もその課題が続くと考えます。学校だけでは対応しきれない部分も多いことから、関係機関や地域との連携を進めることが必要と捉えています。

- ③不登校生徒及び保護者の進路に関する安心感を抱かせるために、進路ガイダンスを1学期を行うとともに、外部の関係機関等と連携した取組を行う。

【この項目に関する自己評価】

本校では、1年次より上級学校調べをするなど、中学校卒業後の進路を具体的に考える取り組みを実践しています。不登校生徒やその保護者についても進路に対する関心は高いこともあります。6月に保護者会を実施し、上級学校とも連携し、進路情報を提供してきました。多様な進路情報を得ることにより、自分にあった進路選択に繋がっていると考えます。また、外部機関とも情報・行動連携を意識しながら、生徒の状況を把握するとともに、個々に応じた指導を図るよう努めています。

- ④社会生活に向け、身に付けさせたい行動を育てるために、場面（時間 挨拶 責任感）ごとに行動目標を設定し、学校全体ですべての生徒を対象にSWPBSの視点で生徒の行動を認める指導を行う。

【この項目に関する自己評価】

令和6年度から、本格的にSWPBS（ポジティブ行動支援）の生徒指導を展開するよう努めました。特に挨拶・時間を守ること・責任を果たすことの3点について、学期ごとに自分の行動を振り返ったり、集団としての評価を行ったりしてきました。挨拶については、外部からの来校者からもよくできていますねとの評価をいただくことが多くありました。禁止系の言葉は、制限をかけることになるため、常に人の目を気にしながら行動することになり、積極性を失わせることがあります。それを肯定的な言葉かけをすることにより、自発的な行動が増えてくることを期待しています。先行事象的な言葉かけだけでなく、結果を肯定的に受け止めさせることによ

り、引き続き望ましい行動をとることができるように働きかけていきたいと考えています。

⑤生徒個々の将来設計能力を伸長するために、進路のガイダンス機能を充実するよう上級学校調べ・訪問や各教科等の指導を通じて、中学卒業後の進路についての理解を深める進路学習を第1学年から行う

【この項目に関する自己評価】

進学への意識は非常に高いものがあり、特に3年生は真剣に取り組もうという姿勢が顕著に見られました。学習評価に関しては、保護者会や学校だよりも掲載し、ガイダンス機能を高めるよう取り組みました。1年生の時から上級学校調べをするなど、卒業後の自分自身の在り方をイメージさせるよう努めました。第3学年では、昨年度に引き続き「都立高等学校推薦受験対策」を行なうなど、生徒のニーズに応じた指導を展開するよう心掛けてきました。その結果、計画立て生活を送ったり、目標達成ための具体的な手立てを考えたりする姿勢が多くの生徒に見られました。

⑥情報モラルに関する問題への意識を高め、問題の未然防止を図るために、全校生徒へSNS学校ルールの指導を徹底するとともに、ネットリテラシー醸成講座等を活用した指導を通年で継続的に行う。

【この項目に関する自己評価】

学習用タブレットやスマートフォンの利用については残念ながら多くの課題が見られました。また、スマートフォン等の利用時間も年々増加傾向にあり、その依存度が高くなっていることも学校としては課題と捉えています。スマートフォンの校内利用については、保護者・生徒の意見を聞きながら進めてきましたが、健全育成のため校内利用については文部科学省が示す通りの形にしました。生徒が学校内においては直接的な交流を増やしたり、読書に親しむことに注力したりすることで、よりよい関係を築き、よりよい集団となるように努めています。

⑦災害に備えた安全な生活への意識を高めるために、避難訓練の定期的な実施、引き取り訓練、台風や津波等に備える指導を家庭・地域と連携して行う。また、適時的に情報発信を行う。

【この項目に関する自己評価】

令和6年1月に発生した能登半島地震を考慮し、実際に大地震が発生した際の対応について定期的な避難訓練を行い、生徒の災害に対する意識を高めるよう努めました。回を重ねるごとに、迅速にまた状況を踏まえた行動できる生徒が増えてきました。引き取り訓練についても令和5年度に引き続き実施をしました。危機回避能力を高めるためには、継続して訓練を行うことや実際の場面をイメージできるかがカギになると考えます。今後も、実際の災害をイメージさせることができる訓練を考え、実践していくことを考えています。